

技術

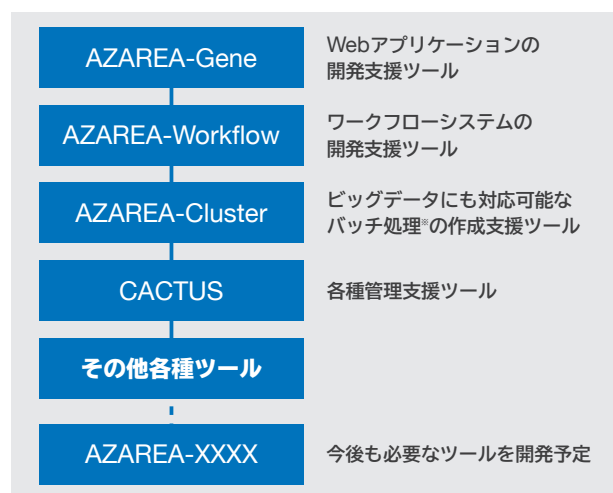
CACグループは、他社との差別化を実現し、競争力のある「知識集約型企業」となることを目指して、技術力・品質向上への取り組みを行っています。

システム開発・運用管理支援ツール群「AZAREA」^{アザレア}

現在のITサービス企業には、スピード感、品質、価格競争力、さらに最新技術への対応が求められています。このようなニーズに対応すべく開発したのがシステム開発・運用管理のための支援ツール群「AZAREA」です。

AZAREAを活用することにより、まず生産性向上が実現されます。一部開発ツールは、既にグループ会社で活用されており、生産性が30%改善したケースもあります。

このように、開発や運用管理における知識やノウハウをAZAREAに集約・蓄積し、サービス品質向上や次世代への継承につなげていく取り組みが、中期経営戦略の一つでもある「All in AZAREA」構想です。



※バッチ処理:一定の期間や量で集めたデータをまとめて一定処理する方法

システム開発・運用における国際標準への対応

「All in AZAREA」と並行して取り組んでいるのがCMMI[※]などの国際標準への対応です。

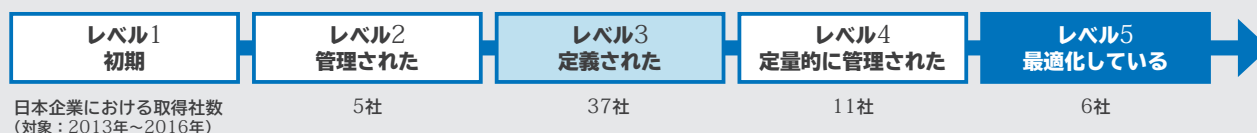
開発プロセスの国際標準であるCMMIは、ある程度のレベルを持っていないITベンダーはグローバルでのベンダー選定に加わることもできません。シーエーシーは、約12年前に金融部門が先行してレベル3を達成し、現在は全社でレベル3となっています。グローバル案件での選定基準の範疇に入れること、開発プロセスや品質に関する信頼を得られるというメリッ

トがあります。今後はより高いレベル5の取得を目指しています。

システム運用サービスについては、情報セキュリティ国際規格(ISMS)「JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013)」を取得しております。

このような国際標準を「All in AZAREA」にも取り込むことにより、高品質と高生産性の両立に加えグローバルスタンダードへの準拠が確立され、競争優位が実現できると考えています。

開発プロセスの国際標準規格的モデル「CMMI」



(出所: CMMI Institute "Published Appraisal Results" <https://sas.cmmiinstitute.com/pars/pars.aspx>(参照: 2016年7月))

※ CMMI(Capacity Maturity Model Integration) : 開発プロセスの国際標準モデル

人材

CACグループは、事業のグローバル化と共に、グローバルでの人材採用・育成に取り組み、ダイバーシティを推進しています。

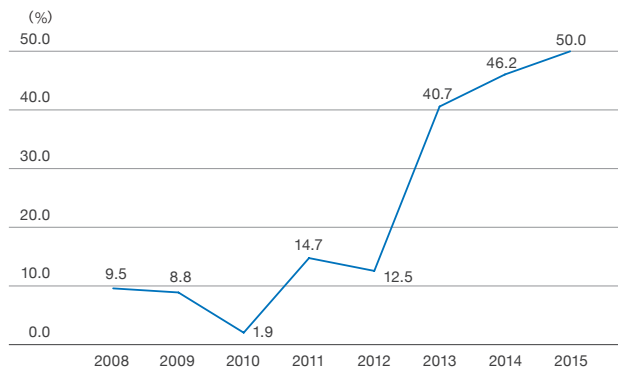
グローバルでの人材強化取り組み

グローバル対応を進めるため、2008年から積極的に外国人を採用しています。中核事業会社のシーエーシーでは、2015年12月現在で20か国52名の外国籍社員が在籍。新入社員に占める外国籍社員の比率は、アジア国籍を中心に50%を占めるまでになりました。優秀な人材を確保するため、2013年からは春採用に加え、秋採用も実施しています。

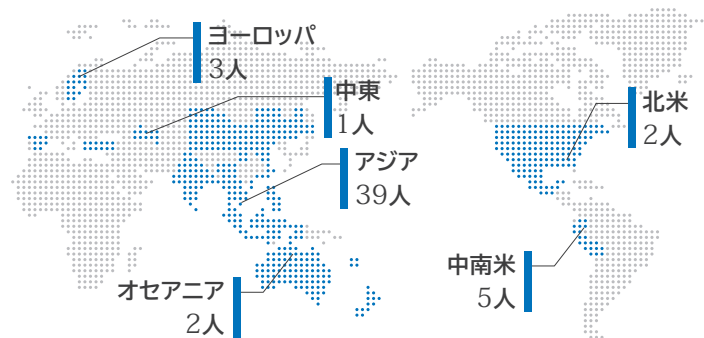
持株会社の経営においても、2名の外国人取締役を登用しています。

このほか、日本人社員の英語力強化にも取り組んでいます。

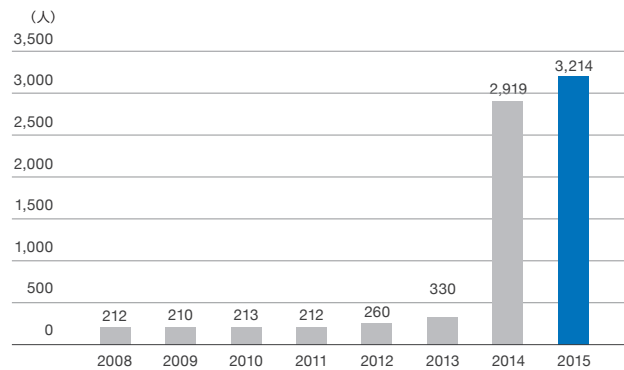
外国籍新入社員の割合 シーエーシー



外国籍社員の出身国 シーエーシー 2015年12月末時点



海外子会社従業員数



経営戦略の一環としてのワークスタイル変革への取り組み

2012年より営業部門、管理部門のフロアを対象にフリーアドレス制を進めています。「いつでもどこでも誰とでも」仕事ができる環境を構築。週1~2日を目安に在宅勤務が可能な「テレワーク」も同時に進めています。シーエーシーではこれらワークスタイル変革への取り組みの中からそのノウハウをITソリューションとして体系化・商品化し、2013年10月から「フリキタスソリューション」を提供しています。

このような取り組みについて2015年1月には一般社団法人日本テレワーク協会主催の第15回「テレワーク推進賞」の優秀賞・会長特別賞をシーエーシーが受賞しました。



社会との関わり

国内大手優良企業と長年の取引

最大顧客であるアステラス製薬（旧山之内製薬）様とは創業間もないころからお取引いただいています。1970年代から情報システムの全面的なアウトソーシングを請け負い、生産や会計、物流などの本社系システムや営業系システム、研究開発系システムの構築、運用を担ってきました。

みずほ銀行様とは旧日本興業銀行時代の1969年からの取引。95年のデリバティブ系プロジェクトなど、海外を含む大規模なプロジェクトに参画してきました。

その他、様々な国内トップクラスの企業と長く関係を築いており、大型顧客（売上上位10社）との取引は、平均で25年以上となっています。

CACグループは、これらの業界大手の顧客とのコミュニケーションを通じて、技術だけでなく、業務上で重要な知識やノウハウを蓄積してきました。

銀行業務や年金関連業務に関しては、シーエーシーとして業務ノウハウについての書籍を出版するまでになりました。

また、業務知識や経験を活かしたサービス提供が認められ、お客様より感謝状などをいただくこともあります。



シーエーシー技術者が執筆した
『図解で学ぶSEのための銀行三大業務入門(第2版)』
(金融財政事情研究会)

年金総合研究所の設立・運営を支援

2012年10月、年金制度に関する研究を行うことを目的とした研究機関として「一般社団法人 年金総合研究所」が産学官の連携により設立されました。企業年金システムの分野で30年以上にわたって数多くの開発プロジェクトに携わってきた中で、将来の年金制度の安定のためには、解決すべき課題が多く存在する認識を深めていた当社は、「国民の年金制度への信頼度向上を図るとともに、年金制度の長期的な安定に寄与する」ことをビジョンとする同研究所の設立趣旨に賛同し、設立の準備段階から支援を開始し、現在もその運営をサポートしています。

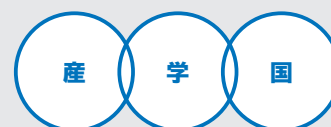
年金総合研究所のビジョン

国民の年金制度への信頼度向上を図るとともに、年金制度の長期的な安定に寄与する

研究テーマ



産学官共同による学際的な研究・検証



CACグループは、年金総合研究所や障がい者スポーツへの支援など、社会貢献活動を通じて、社会的な問題の解決に貢献していきたいと考えています。

ボッチャへの普及・支援活動を開始

CACグループは、IT&ヘルスケアサービスの提供を通じてより良い社会の実現を目指すほか、社会の一員として環境保全、地域社会活動への参加などの社会貢献活動をしています。

日本障害者クロスカントリースキー協会への支援や地域行事への支援、日本赤十字社の献血活動協力、エコキャップ運動などに取り組んでいますが、創業50周年を機に、障がい者スポーツである「ボッチャ」の普及・支援活動を開始しました。



ボッチャとは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしていかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げるのが出来なくても勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることが出来れば参加できます。



ボッチャへの当社グループの取り組み

当社グループは、ボッチャが健常者から重度障がい者まで幅広く楽しめるスポーツであり、また、緻密な戦略と駆け引きが詰まった奥深いスポーツであることに大きな魅力を感じ、ボッチャが誰もが知っているスポーツとなること、障がい者の方々がボッチャに参加できる機会が拡大することを活動目標としながら、今後も全面的に支援していきます。

- ・ 一般社団法人日本ボッチャ協会のスペシャルパートナーとして支援
- ・ 各種大会での社員ボランティアによる運営サポート、応援
- ・ 当社グループの特色を活かしIT技術を使った支援ツールの開発などによる観戦環境整備



社員ボランティアによる運営サポート 支援広告

